



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	(仮称)スター精密(株)蒲川工場 南工場新築工事	BEE	3.6 BEEランク S ★★★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0 /5		よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.8 /5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.7 /5		ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上  4 ふつう 3点以上  3 がんばろう 3点未満  3

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	4.0
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①Low-E複層ガラスの採用</li> <li>④外壁仕上げ材の補修必要間隔は30年以上</li> <li>④主要内装仕上げ材の更新必要間隔は20年以上</li> <li>④ガルバリウム鋼板を採用</li> <li>④耐用年数が30年以上(C)の管材を採用</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</li> <li>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦BPF=0.60、⑧クールヒートチューブ、グラデーションブラインドを採用</li> <li>⑨「ZEB」</li> <li>⑩主要な用途別エネルギー消費の消費特性の傾向把握・分析が可能</li> <li>⑩建物全体のエネルギー消費量の目標値を計画</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪自動水栓、節水型便器等を採用</li> <li>⑫BCP鋼材、合成スラブデッキを採用</li> <li>⑫基礎、基礎梁に高炉セメントB種を採用</li> <li>⑫リサイクル資材を3品目採用</li> <li>⑫杉(県産材)集成材を使用</li> <li>⑫躯体+軽鉄下地+仕上材、OAフロアの採用</li> <li>⑬対象物質を含有しない建材種別を1つ以上採用</li> <li>⑬A種(ノンフロン)断熱材を採用</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭ライフサイクルCO2排出率50%以下</li> <li>⑮見付面積比40%未満、隣棟間隔指標0.5以上 等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</li> <li>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</li> <li>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</li> <li>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</li> <li>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</li> <li>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</li> <li>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</li> <li>2.2.5 ④ 空調、給排水配管の更新必要間隔</li> <li>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</li> <li>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</li> <li>2 ⑧ 自然エネルギー利用</li> <li>3 ⑨ 設備システムの高効率化</li> <li>4 4.1 ⑩ モニタリング</li> <li>4.2 ⑩ 運用管理体制</li> <li>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</li> <li>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</li> <li>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</li> <li>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</li> <li>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</li> <li>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</li> <li>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</li> <li>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</li> <li>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</li> <li>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</li> <li>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</li> <li>3.2.2 ⑬ 断熱材</li> <li>3.2.3 ⑬ 冷媒</li> <li>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</li> <li>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</li> </ul>		
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	3.8
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑯建築基準法に定められた25%増の耐震性を保有</li> <li>⑰節水型器具を採用、縦系統の区分 等</li> <li>⑰非常用発電設備の設置、UPSの設置 等</li> <li>⑰耐震クラスA</li> <li>⑰通信手段の多様化(光ケーブル、メタルケーブル) 等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</li> <li>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</li> <li>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</li> <li>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</li> <li>2.4.3 ⑰ 電気設備</li> <li>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</li> <li>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</li> </ul>		
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲階高3.9m以上(工場用途)</li> <li>⑲壁長さ比率0.1未満(工場用途)</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</li> <li>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</li> <li>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</li> <li>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</li> </ul>		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	3.7
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</li> <li>2 ② まちなみ景観への配慮</li> <li>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</li> <li>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</li> </ul> </li> </ul>			

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)スター精密(株)菊川工場 南工場新築工事	階数	地上3F
建設地	静岡県菊川市	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	210 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年4月26日
敷地面積	23,496 m <sup>2</sup>	作成者	(株)イズミコンサルティング
建築面積	10,129 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月26日
延床面積	13,449 m <sup>2</sup>	確認者	木内建設(株)一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。 緑に囲まれた菊川工業団地に位置することから既存の緑地を活かした計画とし、断熱性の向上や自然エネルギーの利用等、省エネアイテムを積極的に採用することで環境に配慮した計画としました。また使用者の快適性向上のため、リフレッシュスペース確保や動きやすさに配慮した設計としています。		<b>その他</b> -
<b>Q1 室内環境</b> 複層ガラスの採用等により外皮性能を上げることで温熱環境に配慮した計画としています。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮しています。	<b>Q2 サービス性能</b> 補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用することで建物の耐用性・信頼性に配慮した計画としています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 既存緑地を保全することで良好な景観形成に配慮した計画としています。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電システムや、高効率の設備機器を採用するなど、エネルギー面にも配慮した計画としています。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水栓等の省水型機器を用いるなど水資源保護に配慮した計画としています。また、ノンフロン断熱材を採用することで汚染物質含有材料の使用を回避した計画としています。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を50%以下とするなど、地球温暖化に配慮した計画としています。また、燃焼器具を採用しないことで大気汚染の防止に配慮した計画としています。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される